



共和建材 4代目

たなか みすず
田中 美鈴さん

Profile

1991年藤岡市生まれ。専門学校を卒業後は冠婚葬祭を中心とした美容スタッフとして勤めるが退職し、現在は父親の跡継ぎとして藤岡瓦作りの修行に励む。

受け継ぐ、伝統と覚悟の炎

炎

の揺らぎが一つとして同じものない表情を生み出す、美しいふし銀の藤岡瓦。その瓦の窯元はかつて市内に50軒以上ありましたが、現存するのは1軒のみ。その4代目として、田中さんは今日も修行に励んでいます。

3代目である父親は、全ての工程を1人手作業で行う伝統の藤岡瓦職人。仕事に情熱を注ぐその背中を見て育った田中さんですが、

家業を継ぐつもりはなかったといいます。「自分にはできないと思うていたし、継ぐように言われたこともなくて、好きなことをやらせてもらって、専門学校を卒業後は美容関係の会社に就職しました」と振り返ります。

約5年前、子育てが始まったことを機に美容の仕事を辞めた田中さんは、そこから徐々に、パズルのピースがハマっていくかのように瓦職人の世界へ足を踏み入れていきます。「きつかけの一つが、自分の家を建てたこと。関わってくれた職人さんが、口をそろえて父の作るいぶし瓦を褒めてくれたんです。これからも使いたいから、

ぜひ残してほしいって言われて」と話す田中さん。「同時期に発酵の勉強をしていたこともあって、古くから伝えられてきたものには価値があるんだって考えるようになったんです。そして、その伝統を受け継ぐのは今度は私たちの番なんだと。私たちが伝えていかないといけない」と柔らかな口調で話しながらも、その瞳の奥には揺るぎない覚悟が宿ります。

瓦作りは、土作りから始まり薪をくべて達磨窯でたき上げるまで約1カ月のサイクルで行われます。「成形の力加減も、炎の調整も、マニュアルがないので教わりながら自分で正解を見つけていかないといけない。感覚で行う仕事なのでとても難しいです」と話す田中さん。「教わったことや作業の様子は、書き留めたりSNSにアップして形に残しています。藤岡にはこんなに格好いい瓦があるんだっていうことを、伝えていきたい」。400年の歴史の炎を灯すトーチを受け取った田中さん。伝統を未来へつなぐための挑戦は、今始まったばかりです。